

2026 年第 13 週の報告です。

今週は京都府でもインフルエンザの警報が解除されました。保健所別でも南丹・中丹西・中丹東を除き警報は解除になりました。そのほか、山城北の咽頭結膜熱・南丹の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の警報レベルは今週も継続、水痘は乙訓に続き丹後でも注意報レベルとなりました。

全数把握対象疾患は、結核が 5 件、レジオネラ症・アメーバ赤痢・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症・百日咳がそれぞれ 1 件、侵襲性肺炎球菌感染症・水痘(入院例)・梅毒がそれぞれ 2 件報告されました。

さて、今週は府内で麻しんの報告はありませんでしたが、現在、国内外における麻しん件数が増加しており、イギリスなど諸外国においては、その流行により「麻しん排除認定」が取り消されるなど、世界的な感染拡大が懸念されています。日本は、2015 年に WHO（世界保健機関）から「麻しん排除認定」を受けて以降、現在も排除状態を維持していますが、COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の流行期には年間 10 件以下まで減少した件数は、その後、増加し続けています。また、外国（特に東南アジア諸国）を推定感染地域とする輸入事例だけでなく、国内を推定感染地域とする報告や推定感染地域が不明である報告も増加しており、今後、国内での流行も懸念されています。

麻しんは、非常に強い感染力を持つ麻しんウイルスによる感染症であり、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ 100%発症します。麻しんウイルスの主な感染経路は空気感染であるため、通常のマスクや手洗いだけでは感染予防として不十分ですが、ワクチン接種により予防が可能です。ほとんどの人は、2 回のワクチン接種により麻しんウイルスに対する免疫を獲得することができると言われています。

ただ、2025 年度の麻しん・風しんワクチン（MR ワクチン）の接種実施率は、第 1 期（1 歳時）及び第 2 期（小学校入学前の 1 年間）で、それぞれ全国平均 92.7%及び 91.0%と、いずれも目標の 95%に達していません。また、京都府は、第 1 期 91.5%及び第 2 期 90.8%と、いずれも全国平均を下回っています。

定期接種対象のお子さんには、適切な時期に 2 回のワクチン接種を受けさせるようお願いいたします。また、海外渡航を予定している方は、麻しんの予防接種歴や感染歴を母子手帳などで確認のうえ、麻しんに感染したことがなく、かつ 2 回のワクチン接種が完了していない場合は、渡航前の接種を推奨します。

○京都府の麻しんに関する情報：[麻しん情報／京都府ホームページ](#)

○MR ワクチンの情報：[MR ワクチン | 厚生労働省](#)

○海外渡航時のワクチンの情報：[海外渡航のためのワクチン | FORTH](#)